

第II章

全 体 構 想

I. 計画策定にあたって

1. 音更町の概要

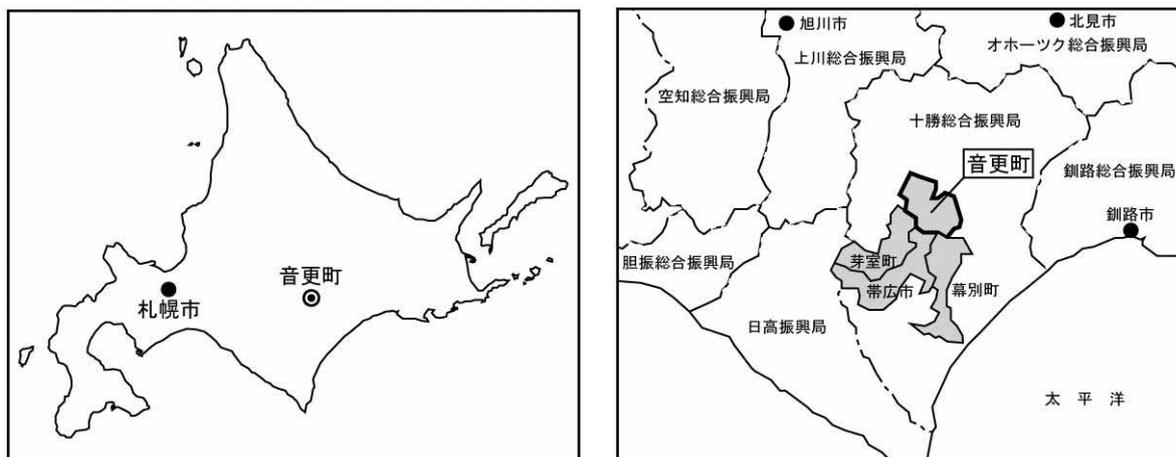
本町は、日本有数の穀倉地帯を形成している十勝平野のほぼ中央に位置しています。

市街地の周辺には、豊かな畑地や樹林が広がっているほか、町名の由来ともなっている十勝川や音更川など美しく豊かな川が多く流れているなど、自然あふれる環境の中、活力のある都市が形成されています。

また、観光面では「十勝川温泉」があり、多くの観光客が訪れ、安らぎと憩いの場となっています。

交通面では、道央ほか全道主要都市と連絡する北海道横断自動車道及び国道などを軸としながら、周辺諸都市との連携がなされています。

【図】音更町の位置



2. 圏域における位置付け

本町は、1市3町で構成される帯広圏都市計画区域の一部を担っており、帯広市の北側に隣接して位置しています。

その規模としては、圏域人口の約17%、圏域都市計画区域面積の約19%を担っており、圏域第2の都市となっています。

また、本町は定住基盤の整備を重点施策のひとつとしたまちづくりを進めており、平成27年の国勢調査では約4万5千人と全道で18番目に人口が多い自治体（町村では最多人口）となっています。また、定住環境の整備のみならず、周辺都市との良好な連絡条件などから、商業施設の立地も進行しています。

3. 将来人口

人口減少・少子高齢化など社会情勢の変化により、これまでの拡大成長を前提としたまちづくりから、持続可能な都市形成を目指すコンパクトなまちづくりへの転換が求められています。これまで増加傾向にあった本町の人口も、平成 27 年（2015 年）の国勢調査からは減少傾向に転じ、今後は人口減少傾向が続くと予測されています。

これらの状況や、「第 6 期音更町総合計画」の将来人口などを踏まえ、「音更町都市計画マスタープラン」の目標年次である令和 22 年度（2040 年度）の行政区域内人口は、40,354 人とします。

【表】音更町行政区域内人口の推計

平成 21 年度 (2009 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)	令和 22 年度 (2040 年度)
45,395 人 (平成 22 年 3 月末 住民基本台帳)	44,136 人 (令和 2 年 3 月末 住民基本台帳)	42,555 人 (第 6 期音更町 総合計画)	40,354 人 (第 6 期音更町 総合計画)
		42,279 人 (国立社会保障・ 人口問題研究所推計)	39,517 人 (国立社会保障・ 人口問題研究所推計)

4. 本町の目指す目標・方向（総合計画における位置付けなど）

第 6 期音更町総合計画における町の将来像は、

「みんなが住みよい 選ばれるまち おとふけ」

とされています。

また、これに基づいた基本目標としては、以下の 5 つの基本目標が設定されています。

- ①経済の好循環でつくる元気あふれるまち
- ②都市と自然が共生する持続可能な住みたいまち
- ③生きる力、支える力を育むまち
- ④健やかで心ふれあう、やさしさに満ちたまち
- ⑤みんなが参加できる協働のしくみでつくるまち

そして、「音更町都市計画マスタープラン」も、総合計画の位置付けを踏まえ、これらの実現に向けた内容とします。

5. 町民意識

本町の「都市計画マスタープランに関するアンケート」によると、町民の意識を示すキーワードは、次のようなものです。

（都市計画マスタープランに関するアンケート 令和元年度実施より）

①満足度が高い分野は……

「住宅地の環境」、「小中学校が近いこと」などで満足度が高い。

②重要度が高い分野は……

「地震・水害など災害への安全」「医療・福祉施設が近いこと」などで重要度が高い。

③満足度が低く・重要度が高い分野（重点改善分野）は……

「地震・水害など災害への安全」「バスの便利さ」「幹線道路の利便性・安全性」「生活道路の安全性・快適性」「徒歩での移動のしやすさ」

④今後の定住希望は……

約7割が今後も現在住んでいる地区に住み続けたいと定住希望割合が高い。

⑤居住地区で将来不安に感じるもの……

「バスの運行頻度減少」「災害の発生」「医療施設の撤退」などが挙げられている。

⑥市街地の方向性は……

「現状維持」を推す回答が45%と最も多く、「拡大容認（19%）」「コンパクト推進（17%）」という両方向の意見がほぼ拮抗している。

これらのまちづくりに対する意見を十分に踏まえながら、「音更町都市計画マスタープラン」を見直しました。